

## RST6分野7項目〈イメージ同定〉

## イメージ同定は文と非言語情報（図表など）を正しく対応づける力

文章で表現された内容と図が対応しているかどうかを見極めるのがイメージ同定の力です。係り受け解析や照応解決、そして同義文判定の一部は、文章の意味を理解していなくても、パターンによりある程度は解くことができます。

しかし、推論、イメージ同定、そして具体例同定は、文が表す意味がわからないと、基本的に解くことができません。そういう意味でも、イメージ同定という分野は読解力を測るためには欠かせないものです。

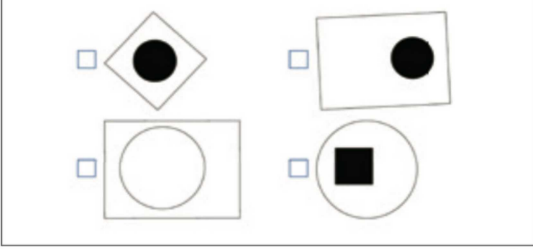
## リーディングスキルテスト（RST）の問題

では、リーディングスキルテスト（RST）「イメージ同定」の問題を紹介します。

**REP (イメージ同定)**

**例題**

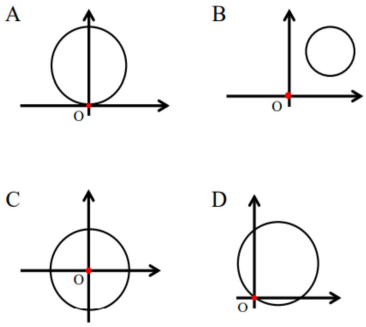
下記の文の内容を表す図として適当なものをすべて選びなさい。  
 四角形の中に黒で塗りつぶされた円がある。



正解:  A  B

下記の文の内容を表す図として適当なものを、A~Dのうちからすべて選びなさい。

原点Oを通る円がある。



	中高一貫学校 (中学)	公立高校
A	18%	12%
B	0%	0%
C	0%	5%
D	0%	1%
AB	0%	1%
AC	6%	0%
<b>AD</b>	<b>64%</b>	<b>78%</b>
BC	0%	0%
BD	0%	0%
CD	6%	0%
ABC	0%	0%
ABD	0%	0%
ACD	6%	3%
B.C.D	0%	0%
A.B.C.D	0%	0%

出典: (オリジナル)

## イメージ同定の力をつける授業

授業の中で、イメージ同定の力を使っていることは多いのではないのでしょうか。しかし、ここが生徒のつまずきポイントにもなっています。読みの最も基本となる係り受け解析と照応解決が低いにもかかわらず、推論、イメージ同定、具体例同定が高いということはめったにありません。したがって、イメージ同定の力をつけるのは、そう簡単ではありません。

授業の中で、次のことを取り入れてはどうでしょうか。

文章で書かれていることを絵や図等で表現する活動を行う。

この活動は、意識して意図的、計画的に取り入れないと、やらないままで終わってしまいます。その結果、子どもたちは、図や表、グラフからの読み取りができないままで、社会に出ることになります。

現代は情報化社会です。その情報にはたくさんのデータが含まれます。データの主なものとして数値があります。その数値は、意図や目的に合わせて、表やグラフにより表されることがあります。それを読み解けるかどうかは重要なことです。

教科書を中心として、生徒が使用する学習材には、多くの教科で図や表、グラフが出てきます。それらと、文章の内容が一致しているかどうかを認識する力をつける機会は、やはり授業です。